2025 年 2 月号

Community & Friend

有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

過去の月間通信は https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 2 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

街の耳鼻科にやって来た。どうも、鼻の具合が今ひとつ良くない。昨年春頃から特に良くない。もともと事の始まりは随分前からで、こんなことを書くと長くなりそうだが、今の会社を起業して順調に成長していて、空きスペースにしていた 20 坪ほどのエリアを事務所にすることにした。それで知り合いの大工に頼んで内装工事をしてもらっていた時、よせば良いものを興味本位で、わざわざ土曜日の休みの日に見に行った。部屋の中は耐火ボードをカットした埃が舞っていた。どうもこれを吸ったことが引き金で、以来 35 年ほどちょっとした空気感の変化にも過剰に鼻が反応して、水洟が出て、止まらなくなる。

エアコンなんて以ての外で、温度センサーで冷気が出始めると鼻が察知し、一度スイッチが入るとその日はもう終わり。点鼻薬をシュシュッとするか、何かの別な刺激を与えないと我が鼻はリセットできない。最終は眠るしかない。そういえば一度、会合で泊まったホテルの部屋のエアコンが粗悪で、(主催者が用意した一流ホテルだったが) 部屋に入った瞬間から、もう鼻水とクシャミのラッシュで、おまけに点鼻薬の持参も忘れていて、そんな気は利かないだろうと思いながらも、藁にも縋るようにダメもとでフロントに聞いてみたがなかった。会合で興奮していて寝ようにも眠れず、困り果てて思いついたのが、蒸しタオルで鼻を覆い、温かい蒸気で鼻の機嫌を直してもらう方法。フェイスタオルに温水を染み込ませ、軽く絞って試してみた。絞り過ぎてはダメ。これを 2 度 3 度繰り返すと、どうしても泣き止まない赤子が泣き止むように、ニコニコ機嫌になった事もある。

昨年の 12 月の初めにこの耳鼻科にやって来た。もちろん 12 月なので待合室にエアコンが入っていて、診察室にも入っていた。にもかかわらず、どうも空気感が違う。心地いい。診察を受けている時、その受けるエルネギーに気が付き、担当医の顔越しに、ふと顔を天井に向けると、エアコンの吹き出し口が私の鼻の正面にあった。再度『にもかかわらず』である。世の中には大概起承転結のルールがある。つまり起こりを見れば結果は自ずと分かる。にもかかわらずとは、これを否定する時に使う文言だ。二度も使いたくなるほど、自分の中の常識を覆した。『あなたの思い込みは今に始まった事ではないでしょう』と言われれば反論はしないが、事はそういうものでもない。30 余年苦しんで来た事の解決方法が此処にあるかもしれないのである。与えられた薬を服用する前に、症状は改善して、以来 3 週間ほどは楽をさせてもらったのである。

申し訳ないが、ページが変わっても未だ同じ話題。年末に風邪を引いた。熱も出て、5 年振りくらいの風邪である。これで、鼻はすっかり元の木阿弥になった。悲しい。この耳鼻科は個人病院だから、医者に空調の秘密を聞いてみたいと昨年来思い続けてきた。それで診察もそこそこに早速聞くと、医療機関専門の内装屋がいて、耳鼻科に来てアレルギーが悪化するようではシャレにならないので、留意して空調を整えたらしい。40 坪程度に 4 台の空気清浄機を設置して、日に 2 度は空気がすべて入れ替わる能力を備えている、との事だった。空気清浄機なら水分を入れるのかもしれない。昔はそうだった。今はそうではないのかも知れない。この水分に何か鼻が気持ち良くなる成分を入れているのかと思ったが、それは聞いてはいけない事かも知れないので聞けなかった。

昨年末から会社の事務所は風邪が蔓延して、とても健康を売り物にしている会社とは、恥ずかしい限りである。で、換気を促すように設備投資をしようと思う。窓を開ければ良いだけなのだが、最近の人はどうもエアコンに頼って、窓を開けて換気というのは日常的ではないのか、眩しいという理由でブラインドまで閉めっぱなしである。まあ、眩しいというのは分かる。自分も眩しいのが苦手でサングラスは手放せない。だけど、その窓は西陽が入るだけだから、とも思う。昔は、真冬でも朝来れば全部の窓を開け放つ事務員がいて、清々しかった。

そんなことを言っているより、お金にものを言わせ、空気清浄機を能力計算して、同じように日に二度は空気がすべて入れ替わるようにしたい。水分を必要とするなら、コロナ時に消毒剤として使用していた次亜塩素酸水を希釈して入れれば、風邪やインフルエンザのウィルス蔓延も緩和されるかも知れない。ついでに言うなら、エネルギー値の高い水で希釈をすれば尚良いかも知れない。このエネルギー値の高い水は、付き合いのある北海道の『まほろば』って面白い企業が結構な活水器を販売している。自宅には設置してあるが、会社には未だである。何故かというと、設置に少し職業的な技術がいるからだが、頼んでみよう。

さて、画像の話しだが、これは待ち時間に近くの珈琲店に来て、これを打っているから。背景の布バッグはお気に入りで、故あって九州の宗像大社に出掛けたとき、それこそ昨年の 2 月に書いた西荻窪の長本兄弟商会の、私がいた頃の雰囲気に似た直売所があると何かで知っていたので、ついでに寄ってみた。直配所で在来種の野菜やその種をたくさん買ってしまい、もうひとつバッグが無いと持ち帰れないので、どうしようかと思っているとこのバッグが置いてあった。よく見ると生地もなかなか上質な物を使っていて、その組み合わせもセンスが良い。裏地もちゃんとついていて内ポケットまである。しかも縫製がすごく丁寧。娘でも買い物のときに使ってくれれば良いと思い買って来たが、彼女の趣味ではなかったようで、そのまま放置されていた。

ところが、縁というものはあり、パソコンを大塚商会に機種指定で発注したが、届いた品物は B4 サイズほどあり、普段使いのバッグに入らなかった。気に入っていた営業マンでクレームを出せば困るだろうから、黙って使う事にした。もしやと思い、そのパソコンを入れてみたところ、just fit とはこのことで、誂えたように入った。

このバッグがあったから、彼が間違って納品したとも言えるし、逆に将来のこの間違いを予期してこのバッグが先に、自分の前に現れたとも言える。そのように考えると、世の中の起承転結の順序は、決してこのままでは無い事もある。気が付かないだけで、事もある、程度ではなく、実は同時に存在していて、それぞれの前に現れる順序は、後から決定づけられているに過ぎないのかも知れない。『量子もつれ』の認識と同様に、アインシュタインが反論した『神の係数』は存在しなくて、むしろこうした認識が、私たちが普段常識としている範囲の次元を超えた物理が、世界には横たわっているような気がする。

この認識を受け入れるか否かで、もちろん世界は見え方が変わる。真実はひとつだが、事実は見方によって幾通りもあると聞いていたが、その真実も事実として捉えると、アインシュタインの仮説は正しいとされる時が来ないとも限らない。

有限会社アルファー　吉田清一郎